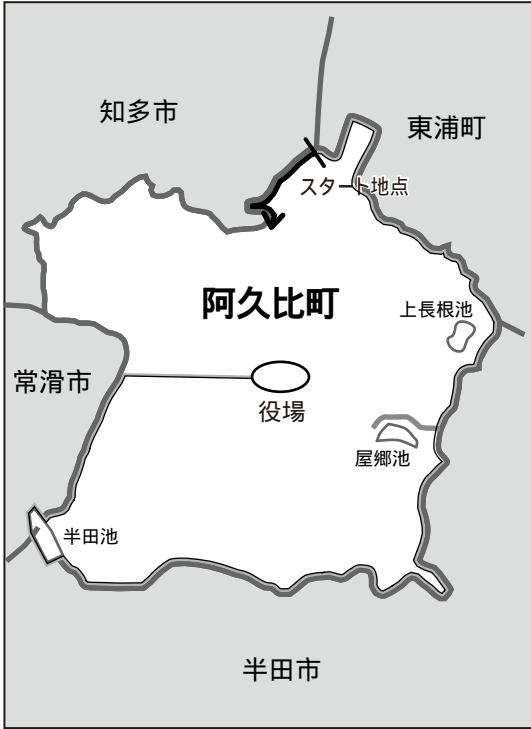
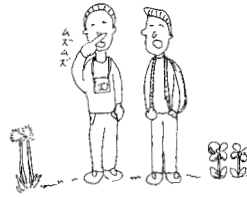


# シリーズ

## 阿久比を歩く ㊦



結芽木橋付近

今回は名鉄巽ヶ丘駅付近からスタート。駅は知多市地内。県道名古屋半田線を横断して商店街を南に向かい阿久比町に入る。境界は県道から少し西にある細道に続き、民家の敷地内にも入り組む。

# あぐいぶらり旅 境界線を行く ㊦

色とりどりの美しい花が咲く。空は五月晴れで気候は抜群だが、二人とも鼻が「ぐじゅぐじゅ」。敏感な私たちは春先のスギ・ヒノキの花粉に代わり、イネ科の花粉に反応しているようだ。「ハックション」。「何か冷たいものが顔に飛んできましたよ」と友人が嫌な顔をする。「ごめんごめん。外だから開放感いっぱいでおもいつりくしゃみがしたくてね。次は手で押さえるよ」。「お願いしなすよ。もー」。

田畑が広がる。水田には等間隔に稲が植えられる。目の前の畑では夏野菜が育てられ、紫色したナスのつるが支柱に巻き付く。季節は春から夏への準備が進む。砂利道を歩く。遠くに幼い男の子とお父さんが小川をのぞき込む姿が見える。タモで何かを捕まえようとしている。二人に近づき「何かいるの?」と尋ねると、男の子は必死でタモを動かす。お父さんは「へびがいたんですよ。この子はなぜだか分かりませんけどへびが大好きなんです。そっだよなあ」「うん。満面の笑みを浮かべながら子どもはうなずく。「頑張って捕まえたら見せてよね」と友



へびを捕まえようと夢中になる親子